

新聞活用の前後 読解、表現力変化

鹿児島、NIE学会で報告

教育に新聞を活用するNIE(教育に新聞を)の成果や活用方法を話し合う日本NIE学会が24日、鹿児島市の鹿児島大で開かれた。鹿児島大の溝口和宏教授らが、県内の学校で新聞を活用した授業をする前と後で読解力や表現力が変化したとの研究結果を発表した。25日まで。

子どもたちの「資質・能力」の育成に、NIEが果たす役割について、全国の研究者や教員ら約120人が議論した。次期学習指導要領は、知識・技能や思考力など、身に付けさせる資質・能力を明示



鹿児島大で開かれたNIEに関するシンポジウム＝24日午後、鹿児島市

しており、今回のテーマとした。

溝口教授らによると、薩摩川内市の中学校では、買い物に不自由する高齢者と、増加する空き家を巡る2種類の新聞記事を読み比べた。共通する問題点と異なる点を生徒たちに考えさせると、問題を生む社会状況への関心が高まったという。

溝口教授は「先生はNIEを通じて生徒の成長を実感している。その実感をNIEの効果として具体的指標を示すことが課題だ」と述べた。

資質・能力別ごとの分科会もあり、25日には学校現場での取り組みに関する自由研究発表がある。